

点検検証部会第1ワーキンググループ第1回会合 議事概要

1 日 時 平成31年3月27日（水）9:00～12:00

2 場 所 総務省第2庁舎 6階特別会議室

3 出席者

【委 員】

河井 啓希（座長）、川崎 茂

【専門委員】

大西 浩史

【説明者（各府省等）】

国土交通省

【事務局（総務省）】

横山大臣官房審議官、平野大臣官房審議官、澤村統計審査官
統計委員会担当室：櫻川室長、永島次長、阿南次長、柴沼次長

4 議 題

- （1）ワーキンググループにおけるヒアリングの進め方について
- （2）国土交通省の基幹統計調査について（ヒアリング）
- （3）その他

5 概 要

- （1）ワーキンググループにおけるヒアリングの進め方について

座長から、資料1に基づき説明が行われ、了承された。

- （2）国土交通省の基幹統計調査について（ヒアリング）

事務局（統計委員会担当室）から、資料3-1～資料3-8に基づき、項目ごとに総括的な説明が行われ、ヒアリングが実施された。

主な発言は以下のとおり

- ・実査段階、個票データの審査段階、集計段階のチェックはそれぞれどのように行われているか。
- 目視によるチェック・審査が主体で、システムによるものが少ない。
- ・集計段階におけるチェックについて、書面調査票の回答からすると、目視によるチェックをするよう統計センターに指示しているように読めるが、事実関係は。
- エラーチェックのやり方は統計センターに指示していないが、センター側は自らの判断

でチェックを実施している。

- ・電子メールで入ってきたデータは、集計に向けてどのように処理しているのか。
- 紙に印刷して入力・集計をしている。
- ・特に集計が遅れたりしやすい理由、公表が遅れたりしやすい理由は何かあるのか。
- 事業者の負担感が大きく、回収に時間を要している。新たな調査手法を調査研究して、改正する予定で作業を進めている。
- 報告者の遅延なども考えられる。
- 調査周期や報告期限の目標設定のあり方は、早期公表のニーズや調査内容などを総合的に勘案して、個々に考えていくことが必要。
- ・ユーザーが統計をどのように利用しているか、ニーズや必要性を把握することが重要。
- ・過去5年間で32件の正誤を公表し、最近1年間で集中的に発生している統計があるが、なぜか。
- 公表前に数字をチェックし、過去データと整合性がとれているか確認しているが、最近重点的にチェックを行ったなかで、過去数値に誤りがあり修正しているところが多い。
- ・報告者の誤記入も多い。誤記入を防ぐ取組を重点的に進めていただきたい。
- ・人によるチェック作業には限界があるので、紙で出してチェックするのではなく、データで捉えてシステムでチェックするところを増やしていくことが必要。
- ・港湾調査は、地方が集計作業の一部を実施し、国にはその集計結果のみ提出しているとのことだが、調査票はどのような保管をしているのか。
- 都道府県が持っている調査票は、電子化・永年保存されていない可能性がある。
- ・回答データは、いざというときに戻れなくなってしまうことがないよう、原データをしっかりと保存する必要がある。それがないと説明責任を果たせなくなるので、その意味でも重要。
- ・業務量換算で2人程度という統計もあるが、体制的には足りているのか。
- 現行業務の遂行は可能だが、業務見直しや突発事象への対応は困難。職員の計画的な育成も困難な状況。
- ・港湾調査について、都道府県毎にチェックの方法は違うのか。統一的なプログラムなどはないのか。
- 1枚の調査票になっているが、複数の事業者が記入してデータが作られており、行政記録や民間データを活用している事業者もいる。一律のシステムではやりにくいという事情もある。

(3) その他

事務局から次回の日程について報告があった。

(以 上)

<文責 総務省統計委員会担当室 速報のため事後修正の可能性あり>